

令和5年度

第3回朝霞市男女平等推進審議会会議録

令和6年1月31日(水)

総務部 人権庶務課

様式第3号(第13条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第3回朝霞市男女平等推進審議会	
開 催 日 時	令和6年1月31日(水) 午後2時00分から午後4時00分まで	
開 催 場 所	ゆめぱれす(市民会館)会議室梅	
出 席 者	別紙のとおり	
会 議 内 容	別紙のとおり	
会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管(保存年限 年)	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
会議録の確認方法 会長・副会長による確認		
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者なし	

令和5年度第3回

朝霞市男女平等推進審議会

令和6年1月31日(水)

午後2時00分から

午後4時00分まで

ゆめばれす(市民会館)

会議室梅

1 開 会

2 議 事

(1) 第3次朝霞市男女平等推進行動計画策定に向けた市民意識調査・事業所アンケートの内容について

(2) その他

3 閉 会

出席委員(10人)

委 員	男女平等の推進に関する活動を行っている者	小 島 真知子
委 員	関係行政機関の職員	岩 上 和 弘
委 員	知 識 経 験 者	内 山 有 子
委 員	知 識 経 験 者	金 子 智恵子
委 員	知 識 経 験 者	久 慈 須美子
委 員	知 識 経 験 者	栗 山 昇
委 員	知 識 経 験 者	土 佐 隆 子
委 員	公 募	兼 本 尚 昌
委 員	公 募	川 村 三 奈
委 員	公 募	島 根 道 子

欠席委員(3人)

委 員	関係行政機関の職員	金 井 美 奈 子
委 員	関係行政機関の職員	奥ノ木 智 子
委 員	男女平等の推進に関する活動を行っている者	星 名 弘 恵

事務局(3人)

事務局	人権庶務課長	西内孝至
事務局	人権庶務課長補佐 兼男女平等推進係長	山木健
事務局	人権庶務課主任	熊谷友美

資料一覧

- ・次第
- ・資料1 調査概要
- ・資料2 朝霞市男女平等に関する市民意識調査について(案)
- ・資料3 朝霞市男女平等に関する事業所アンケートについて(案)
- ・参考資料① 朝霞市男女平等に関する市民意識調査について(令和元年度実施分)
- ・参考資料② 朝霞市男女平等に関する事業所アンケートについて(令和元年度実施分)

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎ 開会

- ・出席委員数報告
- ・会議公開及び傍聴希望者の確認
- ・配付資料の確認

◎ 議事1 第3次朝霞市男女平等推進行動計画策定に向けた市民意識調査・事業所アンケートの内容について

○事務局(熊谷)

それでは議事1、第3次朝霞市男女平等推進行動計画策定に向けた市民意識調査・事業所アンケートの内容について、ご説明いたします。資料1をご覧ください。朝霞市では、男女平等推進条例に基づき、平成28年度から令和7年度までの10年間の計画である、第2次朝霞市男女平等推進行動計画が令和7年度に満了することに伴いまして、令和8年度から令和17年度までの第3次朝霞市男女平等推進行動計画を策定いたします。策定にあたりまして、市民の意識や日常生活の状況等を把握し、行動計画の策定や今後の取り組みの基礎資料とするために、市民意識調査・事業所アンケートを実施することとしております。本日は、各調査、アンケート内容につきまして、広くご意見をいただきたいと考えております。まず、調査対象ですが、市民意識調査は18歳以上の2000人を対象に行う予定としております。また、事業所アンケートにつきましては、朝霞市内に所在する、総従業員数10人以上300人以下の150の事業所に行う予定です。次に調査期間ですが、令和6年8月から9月頃を予定しています。参考までに申し上げますと、前回の市民意識調査の回収率は27.0%、事業所アンケートは40.0%となっております。今回は、回収率向上のために、WEBアンケートも併用して行う予定にしております。続きまして資料2をご覧ください。市民意識調査についてご説明いたします。設問項目につきましては、計画の経年変化を見る必要もございしますので、基本的には前回の内容をベースにしておりますが、新たに追加しましたところや変更した部分に関しましては、色を変えておりまして、白黒印刷された方はすこし薄字で表示されている箇所となります。前回の調査以降、世の中の動きといたしまして、令和5年6月にLGBT理解増進法が施行されております。また、令和6年4月には、困難女性支援法が施行予定となっております。また朝霞市では、令和5年4月から、パートナーシップ・ファミリーシップ制度が開始されております。これも踏まえまして、関連す

る設問も取り入れております。主な変更点といたしましては、まず、2ページをご覧ください。1、回答者属性の質問で、同性パートナーやその子どもを回答項目に追加いたしました。続きまして、12ページをご覧ください。男女共同参画社会について(1)、言葉の周知状況についての設問で、各法律の名称を追加しております。15ページをご覧ください。性の多様性やLGBTに関する項目について、8(1)の以前までSOGI(ソギ)と表記していたところをSOGIE(ソジー)と改め、E(エクスプレッション)を追加しております。また、(2)では、LGBTと以前まで表記していましたが、性的マイノリティ(LGBTQ等)と表記を改めております。また、その他にも多様なセクシャリティがあるということを注意書きに書いております。続きまして、資料3をご覧ください。事業所アンケートについてご説明いたします。こちら令和元年に実施していますので、基本的には前回の内容をベースに作成しています。主な変更点は、19ページの3(3)、産後パパ育休の制度の利用状況ですとか、相談体制についてを問う設問を加えております。続きまして、20ページの4、環境整備の(1)では、以前はセクハラに限った設問となっていたのですが、ハラスメントと表記をさせていただいて、設問の幅を広げました。また、(2)では、性的マイノリティの方への対応なども新たに追加いたしております。(3)は、女性活動躍進法ですとか次世代育成支援対策推進法の内容を追加しております。

○栗山議長

事務局より説明がございましたが、その内容を踏まえまして、皆様のお手元にございます参考資料等も参考にしながら、ご意見、あるいは提案、あるいは感想等ございましたら、願います。どんなことでも結構でございますので、よろしく願います。

○小島委員

市民意識調査のところで、パートナーシップ・ファミリーシップ制度を追加されたということなんですが、事業所アンケートには、追加されているんでしょうか。パートナーシップ・ファミリーシップの制度は、企業さんのご協力もいただかないといけないと思うのですが。

○栗山議長

どうぞ事務局より願います。

○事務局(山木)

本制度につきましては、事業所の皆様方の協力もいただきたいと考えております。ご提案があったとおり、パートナーシップ制度の認知度等を問うような設問を追加させていただきたいと考えます。なお、補足となりますが、本日委員皆様方からのご意見をいただきまして、事務局としましては年度末にもう一度、審議会を開催させていただき、再度アンケートについて皆

様方からご意見をいただきたいと思っています。この会の終了後でも結構ですので、幅広くいろいろな意見をいただければと思っています。

○栗山議長

他に。島根委員さんお願いします。

○島根委員

資料2の、表紙をめくった裏側の一番上に調査の説明がありますが、これも配布する文書に書かれるものですね。上から3行目の「なお、質問項目にセンシティブな内容」ってあるんですが、センシティブって一般的にこういうことだってわかる文言なんですか。デリケートとか繊細とかかなとも思うのですが。

○栗山議長

事務局お願いします。

○事務局(山木)

センシティブという言葉が、どれだけ認知されてるかというようなご指摘だと思います。そういった部分も含めて、ご意見をいろいろご提案いただきたいと思っています。もし皆様方のほうで、ちょっと直したほうが良いということでございましたら、持ち帰らせていただきまして、次回の審議会でご報告いたします。

○島根委員

ありがとうございます。センシティブに代用するような言葉が私は思い浮かばなかったんです。一般的な感じでは、デリケートとか繊細のほうがよいのかなと思った。

○内山委員

「個人的な」と書くことが多いと思います。やはり対象者の年齢を見ると70歳以上の方にも配るとのことなので、なるべく横文字ではなく「質問項目によっては個人に関する情報」とか「個人的な内容を含んでおりますので」というような、わかりやすい日本語で作ることが多いと思います。

○栗山議長

ありがとうございます。他にご意見、ご感想等ありましたらお願いします。

○内山委員

意識調査ということで、これは10年ごとですか、5年ごとですか。

○栗山議長

事務局お願いします。

○事務局(山木)

計画自体は、10年毎としています。第1次、第2次、今度が第3次ということです。10年は長いスパンでございますので、中間年の5年の際に、各目標や施策の数値目標などの見直しはさせていただきます。

○内山委員

10年計画の中の真ん中の5年目でとっている調査ということですか。

○事務局(山木)

はい、これまで5年ごとに1回やっています。

○内山委員

対象者は先ほどお聞きしたように18歳から70歳以上まで。これって各家庭にお配りするものなんですか。どういう風に配布しているのかをお聞きしたい。

○栗山議長

どうぞ事務局

○事務局(山木)

無作為抽出ということでやっております。ただ、無作為といってもやはり男女別については同率になるようにと考えております。前回5年前のときにもですね、概ね半々ぐらいになっておりますので、その中で年齢別、5歳毎に分け、人口比率別に抽出させていただいているところです。

○内山委員

郵送ですか。

○事務局(山木)

郵送です。

○内山委員

例えば、大学生がいるご家庭にこれを一つ送られると、お父様お母さまが回答しているのか、大学生が回答しているのかで、変わってくるのではないかと。18歳人口が何人いて、男女何人で、全体の何パーセントになるから、母数をいくつにしようというデータコレクションだと思わんですけど。おうちに送ってしまった場合、そのとおりに取れないんじゃないかと思ひまして。

○事務局(山木)

抽出は、世帯ではなくて個人で抽出をしています。

○内山委員

個人名で送るのですか

○事務局(山木)

個人名です。

○内山委員

例えば大学生がいるお家だと、山田太郎さんへといったかたちでその大学生の名前で送る。回答はその人に原則してもらおうということですか。

○事務局(山木)

はい。場合によっては、世帯の中でお母さんにもいってしまう可能性もないとは言えないですが、個人宛てにいくような形で行っています。

○内山委員

資料3の事業所の方はどういうふうに抽出しているんですか。

○事務局(山木)

この事業所につきましては、10人以上300人未満ということで、これも無作為でやっております。こちらについて一点、事務局から提案させていただきたいと思ってるところがございます。この300人という部分について、私どもとしては中小企業までというような定義でやっておりますが、大企業に対しても、こういったアンケートをしても良いのかなと考えております。理由といたしましては、埼玉県の男女共同参画の年次報告書があり、その中で仕事と育児の両立支援ですとか、育休の取得率、こういったものを掲載しております。調査票自体は県の就労実態調査から使っているようなんですが、この中では中小企業に限らず、大企業に対しても調査を行っております。先ほど冒頭では300人までのということでお話をさせていただきましたが、この点についても皆様方からご意見をいただければと思います。以上です。

○栗山議長

ありがとうございました。内山委員さん、何か追加質問。

○内山委員

はい、大丈夫です。ありがとうございました。

○栗山議長

他にご意見ありますか。

○金子委員

年齢別にお配りしてるって書いてあるんですけども、70歳以上ってことは80歳90歳の方にも届く可能性があるんですか？

○栗山議長

事務局どうぞ。

○事務局(山木)

はい。

○金子委員

そうしますと、例えば、80歳90歳の方は自分で書けないことがあったり、家族が代筆する場合もございますよね。

○事務局(西内)

代筆は差支えないと考えております。

○金子委員

市民意識調査の配布数が2000通とありましたけれども、朝霞市の人口が増えていると思うんですけど、数は変わらないんですね。

○栗山議長

どうぞ事務局。

○事務局(山木)

この2000という数字も改めて検討し、他市の状況も参考に調査をしました。直近でこの計画を策定した市町村に確認したところ、直近では久喜市と深谷市が作っておりました。久喜市は人口が15万程度、朝霞も同じくらいであります。久喜市は18歳以上の市民男女ということで、2000人で同じでした。また、深谷市は人口14万1千程で、18歳以上の市民2000人ということでした。規模としては同人口程度でこういった状況でしたので、このような数で良いのではないかと事務局の方で考えているところです。

○金子委員

ありがとうございます。回収率が27%で残念な気がしますけれども、もう少したくさん回答いただける良い方法があったらいいなと思っております。

○栗山議長

事務局。

○事務局(山木)

なるべく1人でも多くの方からの現状を把握したいと、私達事務局も考えております。今回は紙ベースの郵送とプラスして、WEBでのアンケートということで、なるべく手間がかからないような方法というのも考えながら、回収率が高くなるような形を考えていと思っています。

○栗山議長

居住年数というのを考慮してるんですか。

○事務局(山木)

居住年数については、現時点では、考慮していない数字です。

○栗山議長

意識調査というのはある程度住んでいないとわからないと思うんですよ。特に若い人が多いですからね。地域によって差があると思うんですよ。だからその辺は、ある程度考慮していただいて、ただランダムにやるんじゃなくて、居住年数とかですね、そういった年齢的なものやっぱり参考にしながらね、今後お願いするようなことを考えていったらどうかなというふうに思います。それに関連して何かございますか。

○小島委員

以前、アンケートの回収率は、見返りがないと普通は一桁どまりと聞いたことがあります。それが前回は27%なので回収率はいいのかなと思います。やはり見返りが無いアンケートでは回収率を上げるのに厳しい面がある。学校だと、子どものためにというのもあるので、70～80%はいくそうです。

○栗山議長

他にありますか。

○内山委員

2000人に配って、回収率20%ってことは、400ですよ戻ってくるの。であると逆算して、あの回答率がだいたい5年ごとにやっていて20%ぐらいであれば、何人に配れば何人戻ってくるっていうのが見えてくると思うので、そういう計算のサンプル、いくつサンプルが欲しくて、だいたい回収率が何%だと何人に配ればいいっていうのを逆算していけば出ると思うので、今のお話だと2000人に配って20%、400何人。しかもその400何人を18歳から70何歳に分けると、1年齢のカテゴリーがものすごく少ないような気がするので、もし2000回収したいのであれば、何人に配るんだって考えてって、その数字でいった方がいいんじゃないかと思えます。もうだいたい回収率、この何年かやって同じぐらいですかね。23%くらいですか。

○事務局(山木)

すみません。それ以前についての数値は、今資料がなく把握していません。

○内山委員

であればそこからサンプル数を決めて、回収率がだいたい20%ぐらいならこのくらい返って来るだろうっていう、統計的に優位になる数字でやらないと、後からこの数字で本当に朝霞市を反映したことになるかかって言われるような気がするので、その辺の統計的なところは計画的にちゃんと母数を決めて、回収率がこのくらいだからこの人数を配りますという方がいいんじゃないかなと思います。

○栗山議長

だいたい何%ぐらいを目標にして、市の方は考えているのかその辺ちょっとお示しただけ

ればと思います。

○事務局(西内)

今、いただきました、統計の優位性ですとかサンプル数に関して、もう一度、どのくらいの数字が必要なのか考えさせていただいて、次回会議のときにお示しできればと思います。何%というよりか回答数が大事ってことだと思います。

○内山委員

戻ってきた数ですね。

○事務局(西内)

回答の数を基に何人に配るかという、計算だと思います。そういったものはまた改めて考慮したいと思います。

○栗山議長

ありがとうございます。他にどんなことでも結構です。

○川村委員

参考までにお伺いしたいんですが、市政モニターというのを募集していると思うんですけど、市政モニターに応募している人は確実に回答してくれると思うんですが、今時点でどのぐらいの人数が市政モニターに登録があるんでしょうか。

○栗山議長

事務局お願いします。

○事務局(西内)

市政モニター制度というのがございまして、別の計画ですが、私たちも、市政モニターさんに向けたアンケートも考えています。その時の人数が、ちょっと正確な数字はわかりませんが、数百人くらいはいたかと思います。

○栗山議長

川村委員さん。

○川村委員

では、市政モニターは有効に意識調査に利用するってということなんでしょうか。

○栗山議長

事務局。

○事務局(山木)

市政モニターさんとは別に、無作為抽出ということにさせていただきたいと思いますが、たまたま市政モニターさんが無作為抽出される可能性はあります。なお、市政モニターの登録状況

ですが、今調べたところ、1500人の方へ無作為で送っている状況かと思います。令和5年の8月時の資料ですと、市政モニターの登録が426人の方がその時点で登録しています。市政モニターの方ですと、アンケートの回収率70%くらいあったとのことで、回収率は高いのかなと考えています。

○川村委員

ありがとうございます。

○栗山議長

金子委員さん。

○金子委員

事業所アンケートなんですけれども、どなたがアンケートに記入されたかっていうのがない。だから社長さんが書かれているのか事務員さんが書かれているのかっていう把握は必要じゃないかって思うんですけれども。

○栗山議長

どうでしょうか、事務局。

○事務局(西内)

はい。以前の事業所アンケートですと、担当者名という欄がありました。今回はアンケートの内容を審議していただくということで、その担当者名を入れるか入れないかなどは、まだ検討段階で、ご意見を踏まえましてまた考えてみたいと思います。

○栗山議長

金子委員さん何かございますか。

○金子委員

大丈夫です。ありがとうございます。

○栗山議長

他に、久慈委員さんどうでしょうか。

○久慈委員

自分でちょっとやってみたんですけど、なかなかすんなりとはいかないんですね。もうちょっと答えやすいような、よくできてると思うんですが、もうちょっとわかりやすい内容で工夫すると、答えやすいのかなとったりしました。

○栗山議長

新座・志木・和光のお互いの市の情報交換っていうか、情報収集っていうか、それについては、市の方ではやってるんでしょうか。

○事務局(山木)

新座市も直近で令和5年をはじめとした計画を作っておりまして、その際に確認したところ、18歳以上の市民2000人でやっています。引き続き、先ほどのサンプル対象者数については、持ちかえらせていただきたいと思います。ご質問の近隣市との情報交換については、現在パートナーシップファミリーシップ制度について、どういったサービスが提供できるのかとか、事業所に対してどういったアプローチをしようとか、そういった情報共有ですとか、一緒になって何ができるのかということで4市で集まり情報収集をしています。会議以外にも何か情報があれば、お互い電話やメールで情報の方は共有させていただいておりますので、この計画についても、直近で作った新座市や他市町村の情報を調査したいと思っております。

○栗山議長

ありがとうございます。他の委員さんどうですかね。もしご意見がありましたら、お聞かせいただければ、市の方も大変参考になるんじゃないかと思うんですけども。

○岩上委員

市民意識調査の方で、女性男性とか年齢の割合って、無作為だと偏ったりしちゃうことって、それで構わないんですか。

○栗山議長

どうぞ事務局。

○事務局(山木)

以前の数値で申し上げますと、対象者抽出2000人に対して、男女で均等になるように行っております。

○岩上委員

年齢的にもばらけるということですか。

○事務局(山木)

年齢もばらけて特定の年代だけに集まらないような形でやっております。

○岩上委員

わかりました。ありがとうございます。

○栗山議長

これから市民の皆さんにアンケートをお願いするわけですが、こうしたほうがいいんじゃないだろうとか、こういうふうになれば回収もよくなるんじゃないだろうとか、お考え、提案、ご意見ありましたら積極的にお願いしたいなと思っておりますけれども。

○事務局(山木)

本来冒頭でお話しさせていただければよかったんですけども、計画のスケジュール案についてお話をしておりませんでしたので、少しその部分について説明させていただきます。計画策定の主なスケジュールとして捉えていただければと思いますが、次期計画については、来年度の令和6年度と7年度の2ヶ年で策定していく予定というふうに考えております。その中で、市民意識調査アンケートと、事業者アンケートを令和6年の8月から9月頃にかけて実施をしたいというふうに思っております。この調査を通じまして男女平等に関する意識ですとか、実態等の現状、またその推移、こういったものを明らかにして、本市における男女平等推進の施策に関する課題の把握などをまずは行いたいと思っております。その後、意識調査やアンケート結果の集計、クロス集計などを用いまして、委託業者の選定を来年度にすることになってくると思いますが、そういった業者の調査ですとか分析、こういったものを行いまして、概ね令和7年の2月頃に、アンケート結果を取りまとめたものを報告させていただきたいと思っております。そして、次の令和7年度の主なものとしたしましては、意識調査、事業者アンケートなどで得た、課題などを踏まえまして、計画の具体的な内容、施策の目標、数値の部分などを検討し、令和7年の夏ごろを目処に素案の方を完成させていただきたいというふうに思っております。その後、9月から10月ぐらいにかけまして、当該素案に対してのパブリック・コメントを行い、広く市民の方から意見をうかがい、12月頃に計画案としてまとめていきたいと考えております。基本的には、前回の計画を基にした予定となりますが、適時審議会を開催し、報告をさせていただきながら、その都度、皆様方からご意見などをいただきたいと考えております。まだ未確定な部分もありますが、私ども事務局で考えているスケジュールとしては、そういったところを予定しています。次回、3月の終わりのほうに、また改めてアンケート内容についてご提案させていただき、場合によっては、次年度の第1回でもアンケート内容について、とりあげることも検討しています。主なスケジュール予定としては以上です。

○栗山議長

ありがとうございます。何か皆さんのほうでお考えがありましたら、積極的にご発言お願いしたいと思います。

○兼本委員

前回のアンケート結果を踏まえて、市が実に行った実例があれば教えてください。

○栗山議長

事務局どうですか。

○事務局(山木)

DVを受けても、相談しなかったという質問の中で、その理由も聞いておりまして、自分さえ

我慢すればよかったというような回答もありました。私達女性センターといたしましては、あってはならないことではありますし、すぐに相談できる場があるんだという事、広く女性センターを周知するということが必要だというふうに考えております。当然広報ですとか、ホームページもですが、直近の話で申し上げますと、公共施設のトイレですとか、本日の会議帰りの際にも、この市民会館のトイレをご覧いただければと思いますが、相談窓口、LGBTQの窓口など、そういったものを徹底的に貼りまして、1階2階3階にも貼っています。今年度では、公園のトイレ、全てではないですが、大きな公園、地区はバラバラに貼ったんですが、少しでも多くの方に女性センターがある、また、県の窓口もある、そういった周知に努めているところでございます。あと、その他で言えば、多様性の部分に関し、パートナーシップ制度、こういったところを検討しなきゃいけないということで、今年度からその制度をスタートするなどしました。

○兼本委員

しっかりと理解できました。ありがとうございます。

○栗山議長

他にございますか。特にアンケートの内容的なものについて何かご意見があれば。

○事務局(山木)

今日で終わりではございませんので、この後帰られてからでも構いませんので、こういった設問があった方がいいんじゃないかというようなこと、メールでも電話でも結構ですので、教えていただければと思っております。また次回の審議会でもこのアンケート内容については継続して議題とさせていただきたいと思っております。

○栗山議長

今日皆さんからのご意見、あるいはそれに対する市の方の回答、そういったものを含めまして、皆さんが持ち帰ってじっくり考えていただいて、こういうことをやっぱり聞きたかったとかご意見がありましたら、どんな形でも結構ですから市の方に文書でもってお伝えして、自分の考えをですねお伝えしていただいても結構でございます。

○内山委員

今アンケートでちょっと気になったのが、2ページ目の括弧4の「あなたの世帯構成をお知らせください」の5番、父親または母親と子どもってというのは父親と子どもなのか母親と子どもなのか分からないですよね。子どもと親の家庭ということだけを取りたいのであれば、これでいいと思うんですが、父子家庭ってということを取りたいのか、母子家庭ってということを取りたいのかを明確にしたいのであれば、変えたほうがよいのではないかとも思いました。この父親母親と子どもって聞くのであれば、そこに意図があるのかなと思ひまして。父子家庭か母子家庭かを

聞きたいのであれば、そこを明確にしたほうが良いのではないかと思います。

○事務局(山木)

はい。今おっしゃっていただいたご指摘の通り修正させていただいて、次回の資料でご提案させていただきますと思います。

○栗山議長

議事1は終了させていただきまして、議事2に入りたいと思いますけどよろしいでしょうか。議事2のその他について、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

○事務局(熊谷)

議事2、その他ですけれども、今回頂きましたご意見に関しまして、再度事務局の方で検討させていただきますまして、次回審議会で報告させていただければと思います。また、改めまして通知のほうはさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。また、今回机に置かせていただきました、男女共同参画週間、内閣府のほうから出されているもので、男女共同参画週間のキャッチフレーズを募集しているものになりますので、ぜひ広くご周知頂ければと思います。

○栗山議長

これですべての議事は終了となりましたけれども、議事録等の作成につきましては、会長と副会長にご一任していただきたいと存じますがよろしいでしょうか。

○委員全員

了承

○栗山議長

ありがとうございます。では、これで議長の座を降ろさせていただきます。皆様、ご理解ご協力大変ありがとうございました。

○事務局(山木)

以上をもちまして令和5年度第3回、朝霞市男女平等推進審議会を終了させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございました。